

報告書⑨：通年供給体制の構築

—タイ向け複数品種イチゴ輸送の実施報告書—

2020年3月24日

Wismettac フーズ株式会社

輸出カンパニー作成

■背景・目的

日本には多岐に渡り様々な品種のイチゴが存在する。品種毎にそれぞれ特徴を持ち、見た目や食味が違う。品種が多岐にわたる中、輸出される品種は限定的になる。品種はあまおう、ゆうべに、恋みのり、ゆめのか、とちおとめなどが主要な品種と考える。品種を限定して輸出することは、現地消費者に対して長期的に存在を周知することが出来る一方、特定品種間において価格競争や需要過多による数量の減少が発生し、全体的な日本産イチゴの輸出量の減少につながる恐れがある。また、品種毎（産地ごと）に収穫の端境期がある為、特定の品種のみを供給した場合シーズン中に供給が途切れる可能性がある。

そこで、当事業では複数の品種を輸出し現地嗜好調査を行う事で主要品種以外の品種の可能性を調査し、前述の課題を解消する取り組みを目的に事業を遂行する。主要品種と比較的市場流通量が少ない品種の嗜好を比較調査することで、現地に求められる嗜好性を把握すると同時に、主要品種以外の可能性を調査する。将来的に複数品種の輸送が実現することで年間を通じた供給体制の構築実現を期待する。

■実施期間

2020年1月14日～2020年2月28日

■実施内容

1. 概要

・輸送品種：淡雪、女峰、さぬきひめを混載して輸送した。

※4品種以上の調査は消費者回答率の悪化並びに回答に偏りが発生する事を想定し

3品種で実行した。

- ・ 輸送先：タイ
- ・ 嗜好調査先：Tops Supermarket 10 店舗
- ・ 調査人数：894 人に対して実施
- ・ 調査委託先：MF Concept 社へ委託した。

2. 調査について

調査方法

店頭で輸送した 3 品種を陳列し、消費者へ試食を依頼し好みと感じた品種に投票を依頼した。また、投票した品種の選択理由について食味別に調査を実施した。





<アンケート結果>

* 調査項目

| 調査No. | 品種 |
|-------|-------|
| A | 女峰 |
| B | さぬきひめ |
| C | 淡雪 |

Q1. どの品種が一番好みか？

| 調査 | 回答者数 | % |
|----|------|-----|
| A | 581 | 65% |
| B | 206 | 23% |
| C | 107 | 12% |

Q2. 選択した理由(複数回答)

| 調査No. | 甘み | 酸味 | バランスあり | 形が良い | 香り良い | 色が良い |
|-------|-----|-----|--------|------|------|------|
| A | 5% | 10% | 5% | 30% | 5% | 45% |
| B | 20% | 7% | 5% | 35% | 3% | 30% |
| C | 30% | 5% | 23% | 5% | 3% | 34% |

Q3. 選択理由順位

※アンケート回答: 約894人

| 順位 | 選択率 | 理由 |
|----|-----|----|
| 1位 | 40% | 色味 |
| 2位 | 28% | 形 |
| 3位 | 11% | 甘味 |

嗜好調査結果

- ・3品種中女峰が人気であった。
- ・色見や形の評価が高い結果となった。
- ・淡雪は白品種である為、海外産の生産数が少ない為珍しさから選択する人が多かったと思われる。

■結論

1. 主要品種以外の可能性

調査結果として、女峰を選択する消費者が多い結果となった。女峰は既に過去3年に渡りタイでの販売促進を進めている関係上、食べた事がある消費者が多かったと思われる。調査を通じて品種名まで把握をして購入している消費者は殆どいなかったが、調査結果にある様に女峰はタイ人の嗜好性に合う品種であると考えられる。今回の調査は食味評価を重点的に調査したが消費者の意思決定要素は、価格や品質状態などのその他要因にも左右されると思われる。主要品種以外も販売方法によっては拡大を期待できると思われる。

2. 複数品種混載による通年供給体制の構築についての課題

複数品種を取り扱った事で、収穫の端境期にも代替的に別品種を供給し続けることが出来た。また、重量規格の違う品種を混載したことで品種間の価格競争に陥ることがなかった。結果的に量販店の棚割りで日本産イチゴのシェアを高めることに繋がった。しかし、タイ政府は青果物の輸入規制を強化しており（梱包施設の登録や梱包ラベルの貼付の徹底など）、規制に対応出来ない生産者（もしくは対応意欲がなくなる）が増える事で今まで出荷をすることが出来ていた商品が出せなくなることが発生している。理想的な供給体制としては複数の品種の輸出を継続的に行う事で様々な嗜好性がある市場に対応をすることで輸出量全体の数量増加の底上げである考えるが、現在の規制上生産者を増やし複数品種の供給体制を構築することは困難であるといえる。

以上